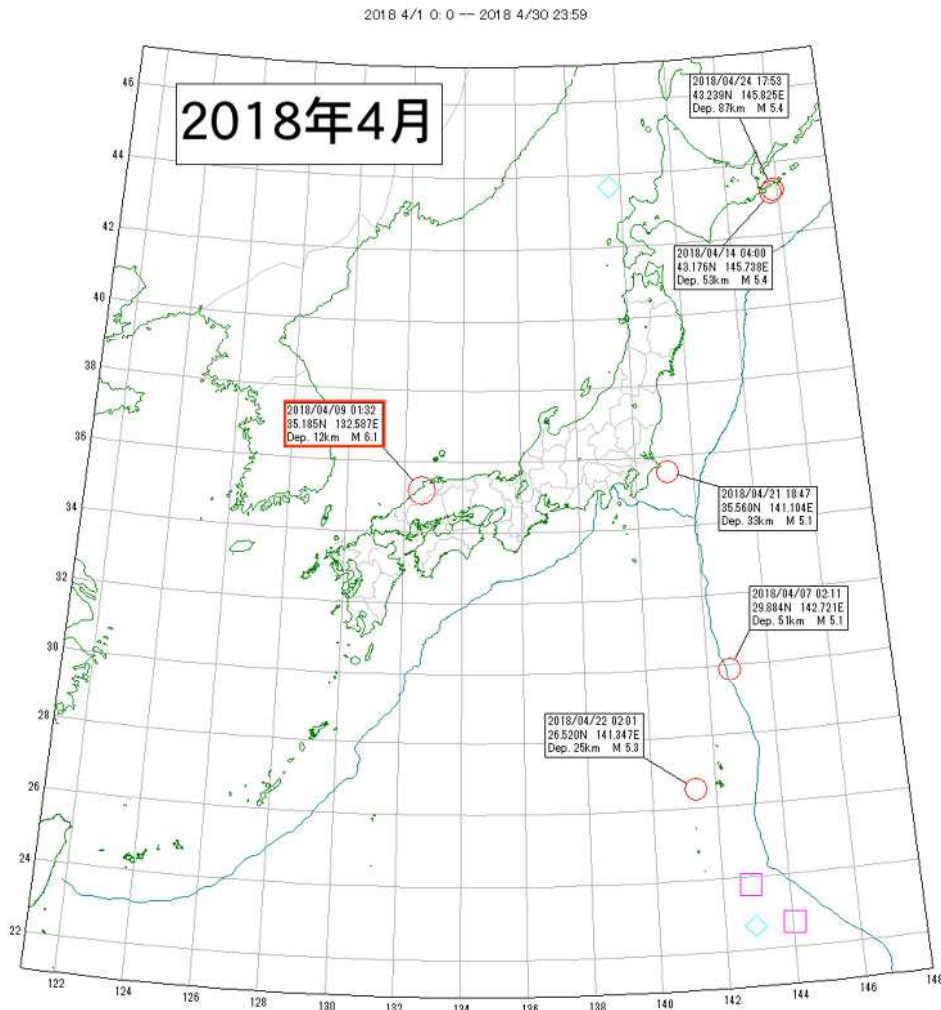




2018年4月と5月の地震活動概況

下の図は2018年4月の日本列島全域の地震活動です。マグニチュード5以上、深さ300kmまでに発生した地震をすべて図示しており、キャプションがついた地震が深さ100kmより浅いところで発生した地震です。

4月にはおよそ一年半ぶりに陸域でマグニチュード6を越える地震が島根県で発生しました。それ以外では、北海道根室近傍で地震が続発しました。

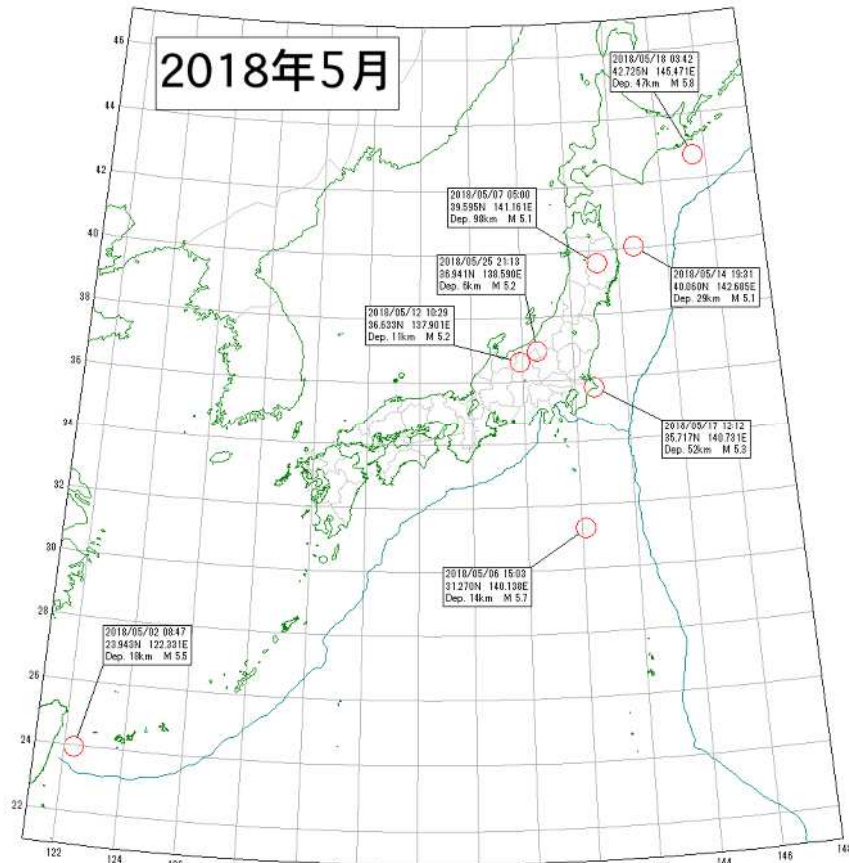


次のページの図は同じく2018年5月の日本列島全域の地震活動です。5月でもっとも大きな特徴は、長野県で地震が続げざまに発生した事です。また根室近傍での活動も続いています。

2017年は地震活動が極めて静かな一年でしたが、2018年も中盤にさしかかり、日本列島全体として、少し地震活動が活発化してきたと考えています。



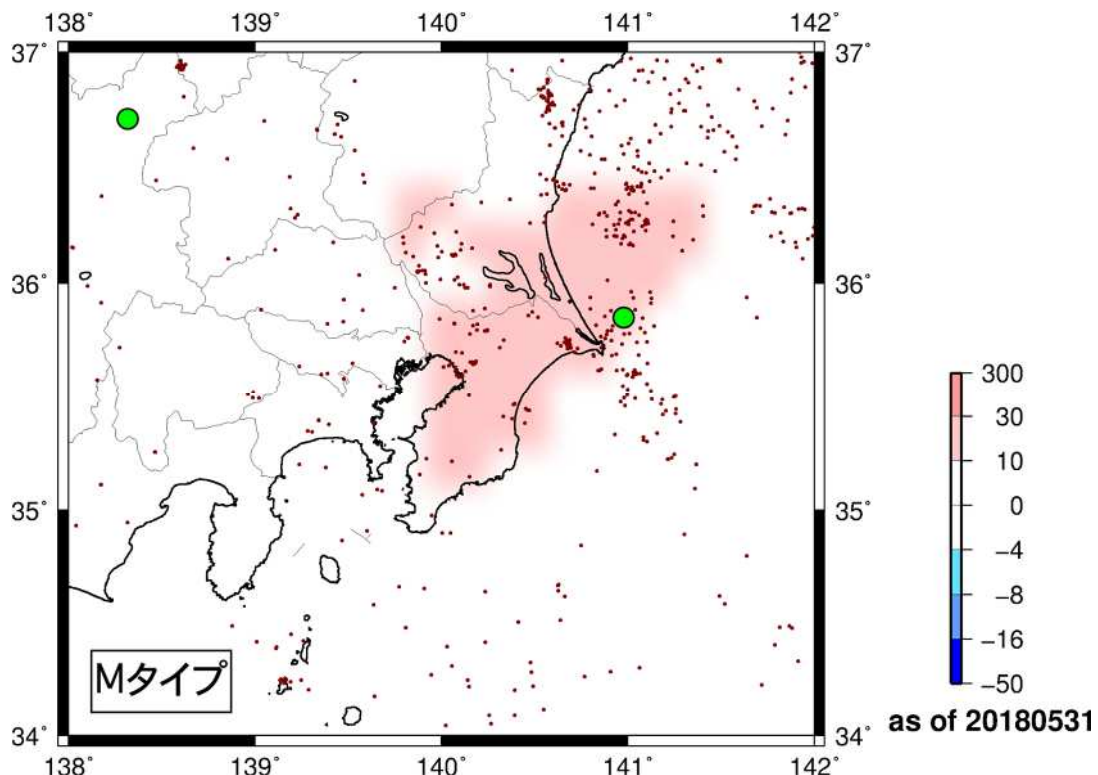
2018 5/1 0:0 -- 2018 5/31 23:59



2018年5月の日本列島周辺の地震活動まとめ

首都圏の地下天気図®

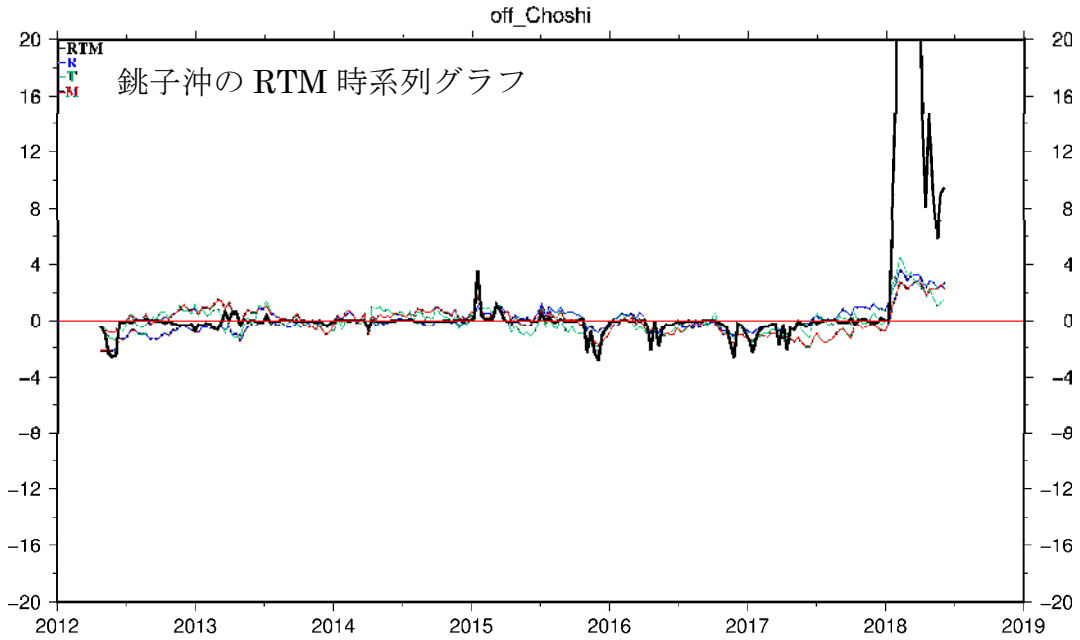
4月23日のニュースターに引き続き、首都圏に特化した地下天気図解析です。次にお示しするのは、5月31日時点のMタイプの地下天気図となります。



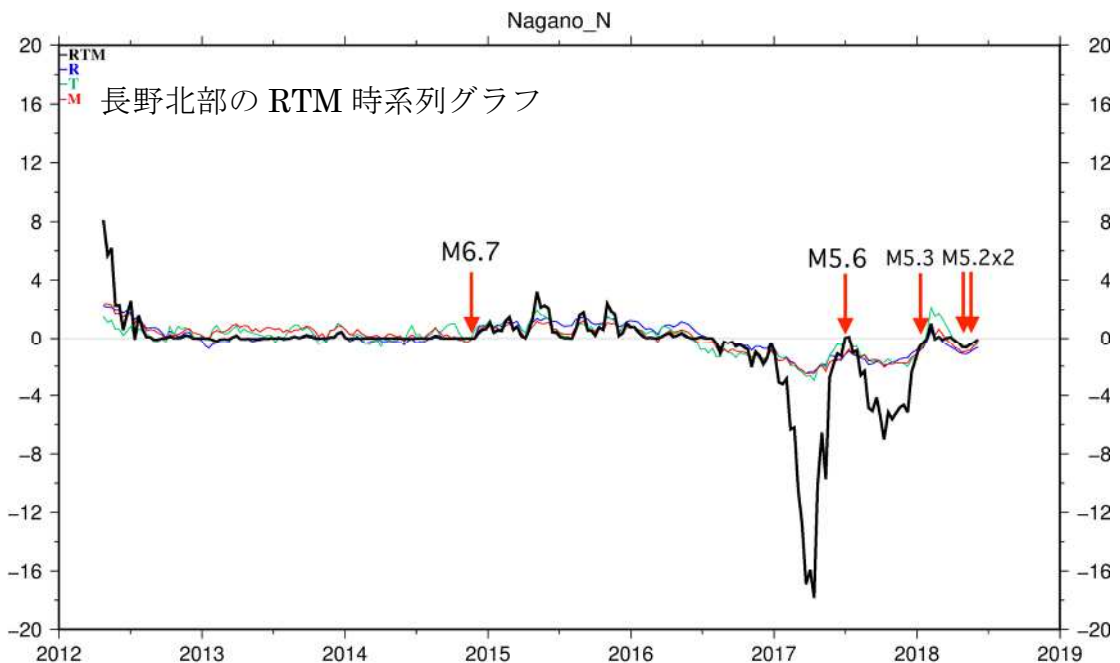


図中に2箇所緑色の●をつけましたが、この2地点(長野県北部と銚子沖)における地下天気図の時間変化(RTM 時系列データといいます)をお示しします。

下の図が銚子沖の RTM 時系列データです。グラフの中央から上の方向に大きく変化しているのが、地震活動が活発化している事を意味します。上の地下天気図で赤く示されている領域が相当します。銚子沖では、東日本大震災以降、大きな静穏化(グラフが下にいく)は発生していなかった事がわかります。

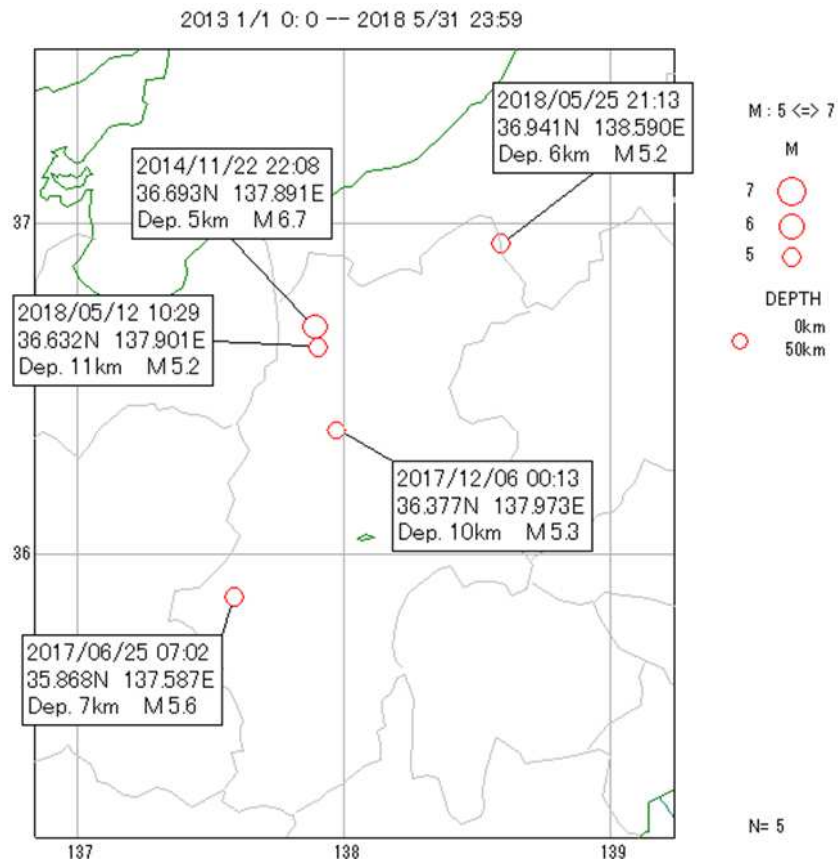


次にお示しする2枚の図は、長野県北部におけるRTM 時系列データと長野県およびその周辺で発生した2013年以降のマグニチュード5以上のすべての地震です。上の図には4個の地震の発生の時期を同時に矢印で示してあります。





長野県周辺では、2014年11月に白馬村周辺でマグニチュード6.7という地震が発生しました(長野県神城断層地震)。この地震では住民の迅速な救助活動により、一人の死者も出ませんでした。



残念ながら地下天気図解析ではこの地震に先行する静穏化の異常を捉える事ができませんでした(地震発生後の解析では、震源付近で地震発生の大きさ分布が通常と異なっていた事が判明)。

また残りの4つの地震の前には静穏化がみられましたが、地震の規模がそれほど小さくなく、はたしてこの静穏化に対応するものかについて、現在色々な角度から再解析を実施しています。

DuMA では、北信越地域に大きな静穏化の異常があるとして、マグニチュード7クラスの地震発生の可能性があるのではないかと考えてきましたが、来週以降、新しい解析を含めて最新の見解を述べさせて頂きたいと考えています。

なお時系列データの詳しい見方については、

http://www.sems-tokaiuniv.jp/DuMA/Tenkizu_Mikata2.pdf

をご参照ください。